

卓話（抄録）

－テーマ「人が輝く元気で住みよいいばらきづくり」－

水戸ロータリークラブにおいて（H20. 4. 15開催）

本県の将来展望など県政運営にあたって、私が考えていることをお話し申し上げたい。

世界では大企業の合併や再編が進み、また、中国やインドなどの新興国が著しい経済成長を遂げるなど、グローバル化がますます進んでいる。資源メジャーによる鉄鉱石などの資源の寡占化や新興国による資源や食料の需要増により、今、あらゆるものが値上がりしている状況にある。例えば、昨年と比べて、石炭が3倍、鉄鉱石が1.6倍、過去5年を見てもそれぞれ6倍、4倍に値上がりしている。

こうした世界の状況を踏まえて日本の戦略が打ち出されているのかが大変大事であり、現状維持の考えでは日本の競争力は低下する一方である。資源小国の日本が、これからの国際社会でその地位を維持していくためには、政府の「科学技術創造立国」に沿った形で、世界との競争に打ち勝ち、外貨を稼げる産業をしっかりと育成していく必要がある。日本の農業についても、今の食料自給率39%を少しでも上げられるように育てていかなければならない。

このような中、私は「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりに取り組み、特に「産業大県づくり」を強力に推進しているところである。

幸い本県は、全国の中でも企業が大変活動しやすい環境を備えている県の一つだろうと思っている。農業についても、農地の面積が比較的大きく、気候的にもいろいろなものが生産でき、首都圏といった大きな市場も近くにあるなど好条件がそろっている。

平成18年の製造品出荷額等は全国8位。鳥インフルエンザの影響で農業生産額は4位に後退したが、すぐ3位以内に復帰するだろう。潜在力としては、工業にしても農業にしても、本県は全国トップレベルにあると思っている。

工場立地面積は一昨年が日本一、昨年は3位と企業誘致は全国トップレベルを維持している。特に県外企業の立地件数は3年連続トップで、高速道路や港湾等が整いつつある企業環境が大きく評価された結果だろうと思っている。また、企業を誘致するに当たって大事なのは対応のスピードである。企業の希望するスピードに付いていけず、立地に至らなかった例もある。県としては、企業が立地しやすい環境をつくり、手続きも早くすることによって企業誘致をさらに進めていきたいと考えている。

また、12月のJ-PARC（大強度陽子加速器）の稼働に向け、来月には、新日本製鐵相談役名誉会長の今井さんを会長にお迎えし、パワーユーザー（大企業）を中心とした中性子産業利用推進協議会を発足する予定である。トヨタやJFEなど約50社が参加していただける予定であり、IT、バイオ、ナノテクなどの分野で新たな産業の創出を期待している。

これからの本県の一層の発展を牽引する茨城空港については、平成21年度末の開港

に向け、現在、就航会社の誘致を精力的に行っているところである。日本の航空会社に加え、ローコストキャリア（LCC）という低コスト航空会社の誘致も進めている。今では飛行機は旅を楽しむより、移動する手段であればいいという考え方の人が増え、LCCが世界的に進出している。茨城空港の場合は1時間半位で東京に行けるのはウエルカムだというのがLCC関係の航空会社の評価であり、現在、東南アジアを中心に就航誘致活動を展開している。韓国の航空会社は間違いなく就航してくれるものと期待している。

また、今年11月には第23回国民文化祭・いばらき2008が本県で開催される。国内最大の文化・芸術の祭典であり、これまでの例では皇太子殿下ご夫妻が来県される予定である。県内をゾーニングし、それぞれの地域の特色ある文化を打ち出していくことを特徴としており、全国からたくさんのお客さんを歓迎したいと思っている。

一方、新たな取り組みとして森林湖沼環境税を4月から導入した。県民税均等割に千円をプラスしてご負担していただくことにしているが、間伐による森林保全や霞ヶ浦などの水質保全にこれまで以上に積極的に取り組み、よりよい自然環境を後世代の方々に残していきたいと考えている。

最後に、道路特定財源について私の考えの一端を述べたい。これはもともと道路に充てる税金ということで自動車ユーザーなどに受益者として負担してもらっているもの。一人当たりの自動車保有台数を見ても東京都は0.26台、本県は0.60台と間違いなく地方の方が多く税を負担している。一般財源化して教育、医療などにも充てるのであれば、都市部より地方の方が多くの税負担をすることになってしまう。そういった不合理をどう考えるか、しっかりと判断してもらわなければいけないと思っている。

環境税という話もあるが、その際にはガソリンや軽油だけに課税するのではなく、温室効果ガスを出す重油や石炭、灯油なども含めて広く課税しなければならないと考えている。

さらには、国民生活に様々な混乱を起こすことのないようリードタイムを設けながら、大所高所の観点から、道路特定財源を含めた税制全体について、しっかりと議論をしていただかなければならないと考えている。

少子化対策や医師確保対策など県政の課題はたくさんあるが、今後とも「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりに全力で取り組んでいきたいと考えているので、引き続き、皆様のご指導、ご支援をお願いしたい。